

しん らん しょう にん しょう がい 親鸞聖人のご生涯

親鸞聖人は、1173年5月21日(承安3年4月1日)、京都・日野の里でご誕生、9歳で得度(仏門に入り僧となること)されました。比叡山で20年間修行されましたが、迷いや苦悩から逃れることができませんでした。そこで山を下り、六角堂での救世観音の夢告により法然聖人の門弟となられ、専修念仏に出遇われました。35歳の時、専修念仏停止によって越後に流罪となり、4年間過ごされ、39歳で赦免されました。その後、妻・恵信さまや家族とともに関東へ移り、約20年間布教を行われました。1224年(元仁元年)は、主著『顕浄土真実教行証文類(教行信証)』を著された年とされます。60歳を過ぎ、京都に帰りさらなる著述活動を行われました。三帖和讃などの執筆や、関東の門弟とのお手紙のやり取りなど、多くの方に浄土真宗のみ教えをお示しになりました。最晩年まで著述活動に力を注がれ、1263年1月16日(弘長2年11月28日)、90歳でご往生されました。

ほう おん こう 報恩講とは

親鸞聖人は、そのご生涯をとおして阿弥陀さまの「われにまかせよ そのまま救う」とのよび声をきき、名号によるお救いを真実のみ教えとしてお示しくくださり、私たちもそのみ教えに出遇わせていただきました。多くの方がこの真実のみ教えを喜び、先人たちが親鸞聖人ご命日の法要を「報恩講」として脈々と受けついで、700年を超える歴史の中で、今日まで大切にお勤めしてきました。真実のみ教えをお示しくくださった親鸞聖人に感謝し、阿弥陀さまのお救いをあらためて心に深く味わわせていただく、一年でもっとも大切なご法要である報恩講にお参りいたしましょう。

【西本願寺グランドツーリングのご案内】 (全国別院巡拝スタンプラリー)

※西本願寺グランドツーリングの詳細や、これまでのリーフレットのバックナンバー等のダウンロードはQRコードから

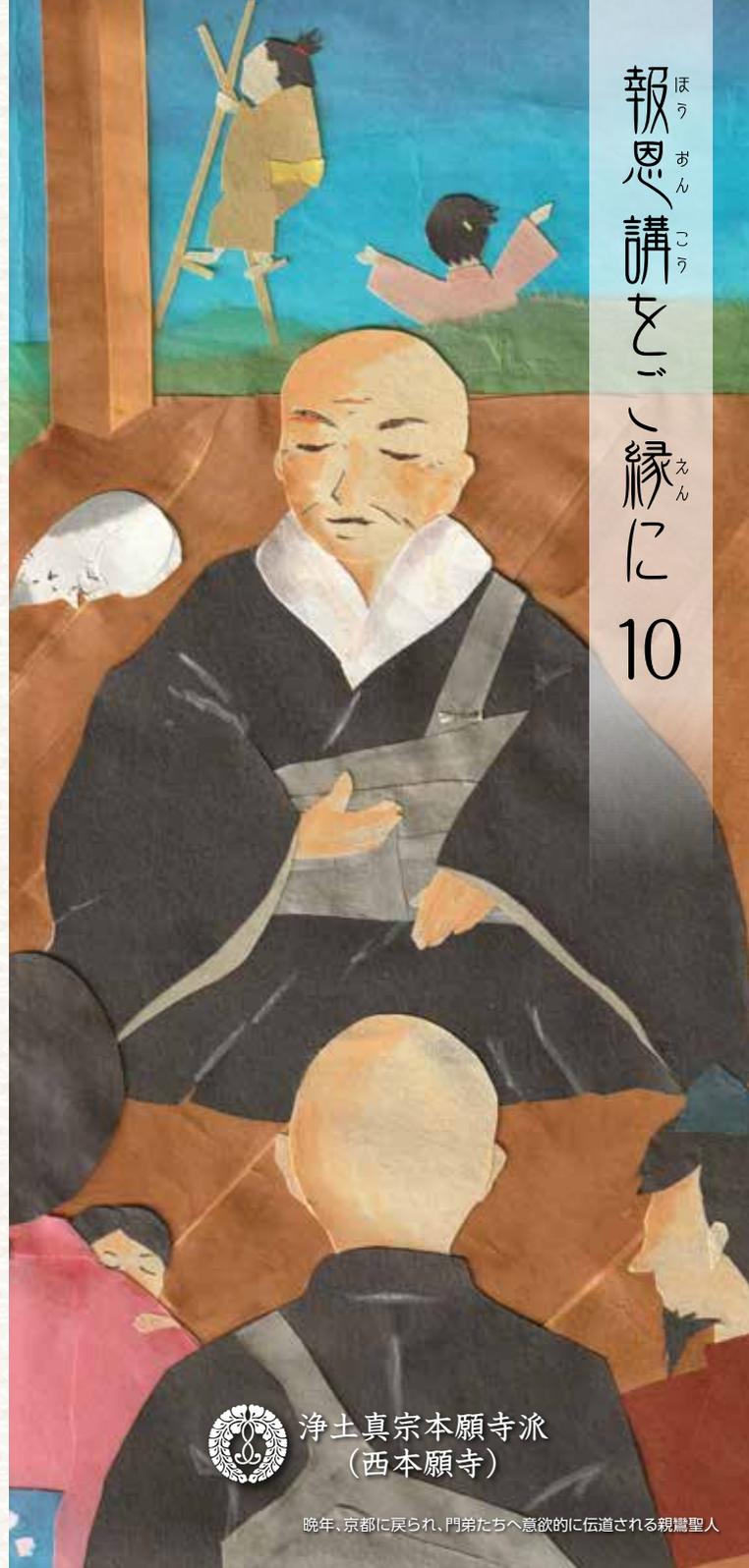


■報恩講の案内

の報恩講は



浄土真宗本願寺派
(西本願寺)



この世にいのちを授かることは尊い。
この世のいのちを終えてゆくこともまた尊い。

親鸞聖人が亡くられたのは、
1263年でした。

昔のひとびとは、

「ひとりといえどもふたりづれ、
六字のみ名とふたりづれ」や、

「ひとに伝える六字のみ名」

という語呂を合わせ、
聖人を慕い、おおい続けてきたのでした。

この世にいのちを授かることは
尊いことです。

そして、この世のいのちを
終えてゆくこともまた尊いことなのだ
と「南無阿弥陀仏」の六字のみ教えは、
お示しくされます。

しんらんたまたま
なにもあみだぶつ
だぶつ
かいはし

新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)

南無阿弥陀仏
「われにまかせよ そのまま救う」の 弥陀のよび声
私の煩惱と仏の私とりは 本来一つゆえ
「そのまま救う」が 弥陀のよび声
ありがとう といただいて
この愚身をまかす このままで
救い取られる 自然の浄土
仏恩報謝の お念仏

これもひとえに
宗祖親鸞聖人と
法灯を伝承された 歴代宗主の
尊いお導きによりものです

み教えを依りどころに生きる者 となり
少しずつ 執われの心を 離れます
生かされていることに 感謝して
むさぼり いかりに 流されず
穏やかな顔と 優しい言葉
喜びも 悲しみも 分かち合い
日々に 精一杯 つとめます

新しい「領解文」
(浄土真宗のみ教え)についての消息
全文はQRコードから



【子どもたちの笑顔のために募金】のお願い



海外の貧困に苦しむ子どもたち、
子ども食堂、学習支援、児童養護施設等を支援

【郵便振替】00940-8-282766
(加入者名) 子どもたちの笑顔のために募金
※通信欄に寄付者の本願寺新報掲載の可否を明記
【銀行振込】、【キャッシュレス募金】の
詳細はQRコードから

